



東海大相模 25大会 花園へ

全国高校ラグビー 桐蔭学園はシード

第95回全国高校ラグビー大会(12月27日～来年1月11日・花園)の実行委員会が24日、大阪市内で開かれ、県予選優勝の東海大相模が記念大会の出場。

第95回全国高校ラグビー大会として京都成章、広島大会(12月27日～来年1月11日・花園)の実行委員会が24日、大阪市内で開かれ、県予選優勝の東海大相模が記念大会の出場。

シードは9校で、西は2連覇を目指す東福岡、春の選抜大会を制した東海大仰星(大阪第1)のほか、大阪桐蔭(同第2)常翔学園(同第3)石見智翠館(島根)の5校。

東は過去5度優勝を誇る国学院久我山(東京第1)や流通経大柏(千葉)国学院栃木、桐蔭学園(神奈川)が選ばれた。組み合わせ抽選会は12月5日に行われる。

大会連続	出場回数	シード校
16	10	10
10	34	17
34	6	27
6	62	22
62	21	10
21	3	21
3	25	21
25	24	21
24	10	21
10	21	21
21	24	21
24	10	21
10	5	21
5	15	21
15	26	21
26	44	21
44	15	21
15	8	21
8	54	21
54	23	21
23	16	21
16	14	21
14	8	21
8	14	21
14	8	21
8	8	21
8	7	21
7	20	21

吉報にも気を緩めず

25大会ぶり8度目の花園出場。練習に集中させたい」と練習後まの吉報。「花園に行けることが決まった」。練習後のミーティングで三木雄介監督(38)から知らされた瞬間、東海大相模フイフティーンは口元を引き締めた。

「喜んでいいられない。きょうの練習ではまだ物足りない」。全国舞台での飛躍へ、指揮官の言葉は熱を帯びる。県高体連から知らせを受けたのは練習の真つ最中。指揮官は「目の前の練習に集中してほしい」とも告げた。

15日の県予選決勝で桐蔭学園に5-31で完敗を喫してから9日間、主将のナンバー8伊藤は「練習の気持ちの入れ方が難しかった」と振り返る。花園か、引退か。天と地ほどの差があるが吉報を信じて汗を流してきた。「花園にただ出ただけに練習を続けてきたわけじゃない。負けて学んだこともある」。

と伊藤。一度は涙をのんだだけに思いの強さは確かだ。四半世紀ぶりの花園に、指導8年目の三木監督も「先代の橋本(三木男)監督が残した功績に続きたい」と息巻く。今春の全国選抜大会でも実行委員会推薦で初出場。再び訪れたチャンスに「次への財産にしよう」と選手たちを鼓舞する。

キャプテンは「まずは桐蔭にリベンジ。その上で全国制覇を目指したい」。開幕まであと1カ月。激しいメンバー争いから力を蓄え、聖地で新たな礎を築いてみせる。(清水 嘉寛、写真も)

※丸数字は出場回数。★はシード校